

| |
|--|
| 小杉家の墓 17 D4 |
| |
| 所在：總念寺 種類：墓塔 |
| （方柱型） |
| 建詳：天明7 （1787） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：145cm |
| 参拝：可 |

小杉家は、片町で葉茶屋を営む商家。阿蘇には金沢の俳人一笑も葬られる。通称茶屋新七、加賀俵燈を担う逸材。元禄2年(1689)芭蕉来訪を心待ちにしてが前年36歳で没した。菩提寺願念寺で芭蕉も同席した追憶句会が開かれた。現内には一笑塚もある。

| |
|---|
| 石野伊左衛門の墓 18 E4 |
| |
| 所在：三光寺 種類：墓塔 |
| （笠付方柱型） |
| 建詳：寛政16 （1803） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：195cm |
| 参拝：可 |

10歳で藩の作事所石工となり石野の姓を賜る。11歳で狂言主附となり、殿中にてしばしば藩役の相手を勤め、明治元年(1868)に狂言棟取役を命じられる。明治16年(1883)没。享年69。

| |
|--|
| 阿部家(碧海)の墓 19 E4 |
| |
| 所在：常松寺 種類：墓塔 |
| 建詳：天和15 年に改修 |
| 石材：凝灰岩 |
| 高さ：176cm |
| 参拝：可 |

阿部碧海は加賀藩士で馬廻り勤め1,500石を賜る。明治2年(1869)金沢古寺町の自邸に土族投産の陶器窯を造り、80余人で大々的に生産、金沢九谷焼の基礎を築く。海外輸出も行ったが借金が多くなり、明治12年(1879)閉鎖する。

| |
|---|
| 山崎長徳家の墓所 20 E5 |
| |
| 所在：常松寺 種類：五輪塔 |
| 建詳：不明 |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：265cm |
| 参拝：要許可 |

当初朝倉家、その後、明智光宗の御本尊の左側の上部2年(1869)金沢古寺町の自邸に土族投産の陶器窯を造り、80余人で大々的に生産、金沢九谷焼の基礎を築く。海外輸出も行ったが借金が多くなり、明治16年(1883)没。享年69。野田山にも墓がある。

| |
|---|
| 不動明王立像 21 E5 |
| |
| 所在：常林寺 種類：石仏 |
| 建詳：享保4 （1833） |
| 石材：凝灰岩 |
| 高さ：69cm |
| 参拝：要許可 |

江戸時代後期に建てられた本堂の御本尊の左側の上部奥に「開運靈業不動尊」が安置されている。歴代住職はこの不動尊に力を借りて病氣や怪言に苦しむ人々を救ってきたという。

| |
|---|
| 青山家の墓所 22 E5 |
| |
| 所在：金曇寺 種類：墓塔 |
| （五輪塔） |
| 建詳：不明 |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：294cm |
| 参拝：可 |

初代青山佐渡守吉次は越中魚津城主となり1万7,000石を賜る。元和期頃、3代正次安置されている。歴代住職はこの不動尊に力を借りて病氣や怪言に苦しむ人々を救ってきたという。

| |
|--|
| 坂井直政家の墓 23 F5 |
| |
| 所在：少林寺 種類：墓塔 |
| （亀狀） |
| 建詳：元治元 （1864） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：118cm |
| 参拝：可 |
| 写真掲載不可 |

この墓は坂井直政が自らの墓(溝亀院)のための元治元年に建立した。戒名に由来したのか亀状である。坂井直政は慶応2年(1866)より13代藩主昌守を再建。この墓所には3代正次、4代吉隆、5代長重などの五輪塔が8基ある。

| |
|---|
| 宮崎寒雄家の墓所 24 F5 |
| |
| 所在：少林寺 種類：供養塔 |
| （笠付方柱型） |
| 建詳：宝暦13 （1763） |
| 石材：凝灰岩 |
| 高さ：208cm |
| 参拝：可 |
| 写真掲載不可 |

初代宮崎寒雄は寛永8年(1631)現穴水町中居に生まれた。京都で修行した後、金沢に下北麓前の拝願屋敷に住み、藩御用釜師として茶釜や金具を造り、3代藩主昌守の御奥小將横目として仕えた。

| |
|---|
| 千手院13世の供養塔 25 F5 |
| |
| 所在：千手院 種類：供養塔 |
| （宝篋印塔） |
| 建詳：寛政12 （1800） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：411cm |
| 参拝：可 |

千手院13世祥元が寛政12年頃建立する。この塔は「宝篋印塔陀羅尼經」を納めた塔である。笠の四隅に隅飾があり、四方の塔身には仏と梵字が刻まれ、さらに高さが4m以上の宝篋印塔である。

| |
|--|
| 六地藏 26 F5 |
| |
| 所在：千手院 種類：石仏 |
| 建詳：寛政12 （1800） |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：86cm |
| 参拝：不可 |

六面に六体の地藏を彫刻したあるもので、千手院13世祥元の手による。六地藏として、錫杖と宝珠、柄杓香、檀落、合掌、鉢、数珠を持っている。

| |
|--|
| 長谷川学方の墓 27 F5 |
| |
| 所在：千手院 種類：墓塔 |
| （方柱型） |
| 建詳：文化4 （1807） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：207cm |
| 参拝：不可 |

長谷川家の養子となる。金沢で町医者をしながら、公事場等3か所の御用を勤める医者でもあった。寛政12年(1800)15人扶持を賜り、さらに藩のお抱え外科医となる。文化4年没。

| |
|---|
| 生駒重信(万子)の墓 28 F5 |
| |
| 所在：光専寺 種類：墓塔 |
| （自然石） |
| 建詳：享保4 （1719） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：167cm |
| 参拝：可 |

加賀藩士、俳人。宝暦元年(1673)知行1,000石を賜る。馬廻組、普請奉行、先頭前に登り、享保4年(1719)66歳で没す。芭蕉三友の一人といわれ、万子と号した。墓は芳齊町の高麗禪寺にもある。

| |
|---|
| 稻屋伊助の墓 29 F5 |
| |
| 所在：光専寺 種類：墓塔 |
| （方柱型） |
| 建詳：高永6 （1853） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：69cm |
| 参拝：可 |

文政5年(1822)、藩は金沢城二の丸などが焼失し、生埋に作る所の詩文苑千首に及ぶ。後に明倫堂助教となり諸士に教授する。没後明治8年門人達が塚塚を建立。裏面に38名の門人名を刻む。

| |
|---|
| 森下屋八左衛門家の墓 30 F5 |
| |
| 所在：光専寺 種類：墓塔 |
| （亀狀） |
| 建詳：延享元 （1764） |
| 石材：砂岩、花崗岩 |
| 高さ：228cm |
| 参拝：可 |

初代大隅宗兵衛は河北郡森本町から金沢に居を移し、寛永2年(1625)3代当主は菓子屋を創業。3代当主は3代藩主利常より町年寄を命じられ、代々町年寄や銀座役を務める。明治2年(1869)森八と改称。墓塔は珍しく亀状である。

| |
|---|
| 樫山長田先生塚塚 31 F4 |
| |
| 所在：泉野斎院 神社 |
| 種類：石塔 |
| 建詳：明治8 （1875） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：206cm |
| 見学：可 |

長田知儀は樫山と号した。幼きより詩文を好み、生埋に作る所の詩文苑千首に及ぶ。後に明倫堂助教となり諸士に教授する。没後明治8年門人達が塚塚を建立。裏面に38名の門人名を刻む。

| |
|--|
| 延命地藏尊と玉泉院地藏 32 F4 |
| |
| 所在：玉泉寺 種類：石仏 |
| 建詳：江戸時代初期 |
| 石材：凝灰岩 |
| 高さ：200cm |
| 高さ：140cm |
| 参拝：可 |

中央の地藏尊が延命地藏尊で一番古く、玉泉院もこの地藏尊を参詣し、父信長・夫利長の菩提を祈っていたという。地藏尊の頭上には、地藏を意味する梵字が刻まれている。左側の地藏尊は玉泉院地藏といわれている。

| |
|--|
| 清水誠の墓 33 F4 |
| |
| 所在：玉泉寺 種類：墓塔 |
| 建詳：明治34 （1901） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：146cm |
| 参拝：可 |

1845～1899。金沢穴水町に生まれる。明治3年(1870)藩に抜擢され、仏に留學しパリ工芸大学に学ぶ。留學中にマッチの自國生産を志し、帰國後東京に「新鐵社」を設立し、本格的なマッチ製造を開始。国産化・輸出に大きく貢献した。

| |
|--|
| 玉泉院の墓 34 F4 |
| |
| 所在：玉泉寺 種類：墓塔 |
| （五輪塔） |
| 建詳：不明 |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：265cm |
| 参拝：可 |

1574～1623。織田信長の娘、名は永。2代藩主利長室。慶長19年(1614)利長喪後後妃として玉泉院と号し、高岡から金沢城西ノ丸(現玉泉院丸)に移り住む。元和9年(1623)没。享年50。野田山前田家墓所最上部に葬られる。

| |
|--|
| 日蓮上人の御廟 35 G4 |
| |
| 所在：本覺寺 種類：墓塔 |
| （六重層塔） |
| 建詳：不明 |
| 石材：角礫凝灰岩 |
| 高さ：363cm |
| 参拝：可 |

日蓮宗の僧。当山開基。上総の人。慶長13年(1608)江戸城で行われた慶長喪後後妃として玉泉院と号し、高岡から金沢城西ノ丸(現玉泉院丸)に移り住む。元和9年(1623)没。享年50。野田山前田家墓所最上部に葬られる。

| |
|---|
| 2代藩主利長塚塚 36 G4 |
| |
| 所在：本覺寺 種類：墓塔 |
| 建詳：江戸時代初期 |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：225cm |
| 参拝：可 |

前田家の重臣三輪忠摩守長好の母妙女で、2代藩主利長の乳母を勤めていた時の大切な女であった利長の御塚である。龍淵殿の墓が刻まれている。

| |
|--|
| 長連起の墓 37 H4 |
| |
| 所在：開禪寺 種類：墓塔 |
| 建詳：不明 |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：225cm |
| 参拝：要許可 |

1732～1800。加賀八家長七家の養女となり、加賀8家前田長徳室2代直直の継室となる。寛永7年(1630)小松城代直知没後、小松城内山崎に住み、竹島のお方と呼ばれた。現七尾市鶴浜と野田山に分散。

| |
|--|
| 長連龍娘(求光院)の墓 38 GS |
| |
| 所在：開禪寺 種類：墓塔 |
| （笠輪塔） |
| 建詳：不明 |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：125cm |
| 参拝：要許可 |

長連龍の娘。2代藩主利長の養女となり、加賀8家前田長徳室2代直直の継室となる。寛永7年(1630)小松城代直知没後、小松城内山崎に住み、竹島のお方と呼ばれた。弘化4年(1847)没、享年66。

| |
|---|
| 杉野梓江の墓 39 H5 |
| |
| 所在：本是寺 種類：墓塔 |
| （笠付方柱型） |
| 建詳：不明 |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：207cm |
| 参拝：可 |

江戸後期金沢の俳人。博野町で富田屋として米什貨の家業とした。中山眉山、成田若葉らに俳諧を学び、桜井梅室も親交があった。杉亭とも言い、一時暮野舎を預った。弘化4年(1847)没、享年66。

| |
|---|
| 佐々主殿の墓 40 H5 |
| |
| 所在：本是寺 種類：墓塔 |
| （板碑型） |
| 建詳：不明 |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：207cm |
| 参拝：可 |

主殿は馬廻組1,000石の高祿であるが自ら負担山積し、家屋の修理も儘ならず屋内を差す有様であった。武士の品性を汚したといわれ、延保6年(1678)も親交があった。杉亭とも言い、一時暮野舎を預った。弘化4年(1847)没、享年66。

| |
|---|
| 佐々主殿伏剣顕碑 41 H5 |
| |
| 所在：本是寺 種類：石碑 |
| 建詳：文政10 （1827） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：212cm |
| 見学：可 |

加賀八家村家九代当主長徳は、自邸内にて寺小屋を経営。明治3年(1870)没。当時六斗林には本村家墓もあったが、明治5年学制が敷かれたと、この墓は改築された。明治31年門前達によって山田先生の墓碑が建立された。

| |
|--|
| 山田吉兵衛の墓 42 I5 |
| |
| 所在：林園寺 種類：墓塔 |
| （輪塔） |
| 建詳：明治31 （1898） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：200cm |
| 参拝：可 |

山田吉兵衛は、六斗林で山田家塾として寺小屋を経営。明治3年(1870)没。当時六斗林には本村家墓もあったが、明治5年学制が敷かれたと、この墓は改築された。明治31年門前達によって山田先生の墓碑が建立された。

| |
|---|
| 不許輩酒入山門の石柱 43 G4 |
| |
| 所在：龍淵寺 種類：墓塔 |
| 建詳：元禄9 前期 |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：200cm |
| 見学：可 |

正面に「不許輩酒入山門」（ニラや酒を飲酒した者は中に入ることの許さない）と大きな刻文。背面には当時の藩主の近藤氏(越前府中)で藩祖利家に仕えたことと織田有楽斎の子孫の名を連署で刻む。

| |
|--|
| 獻燈籠 44 G4 |
| |
| 所在：龍淵寺 種類：墓塔 |
| 建詳：春日權龍 |
| 建詳：江戸時代前期 |
| 石材：坪野石 |
| 高さ：149cm |
| 見学：可 |

本堂に向かって左の燈籠に「前田直成」、右の燈籠に「阿部敬忠」の名を刻む。建立年は不明。直成は加賀八家長種室の近藤氏(越前府中)で藩祖利家に仕えたことと織田有楽斎の子孫の名を連署で刻む。

| |
|---|
| 近藤長広の墓 45 H4 |
| |
| 所在：龍淵寺 種類：墓塔 |
| （五輪塔） |
| 建詳：慶長16 （1611） |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：279cm |
| 参拝：要許可 |

近藤長広は通称善右衛門。越前府中において藩祖利家に仕え、「末森の戦い」に従い、この後、大聖寺城主となる。2代直直の3男で、延保16年没。子孫の新左衛門光保の理清は華道の古流5代家元を継ぐ。墓は善右衛門(2,000石)を祖とする。

| |
|---|
| 2代織田織部の墓 46 H4 |
| |
| 所在：龍淵寺 種類：墓塔 |
| （五輪塔） |
| 建詳：延享2 （1855） |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：360cm |
| 参拝：要許可 |

初代織部は織田有楽斎の孫。藩祖利家に仕え、3,000石を領す。その後、大聖寺藩主利治に就く。その子2代織部は2,500石を領す。延宝元年(1673)没。織田有楽斎は織田信長の弟で晩年は茶人として有名、利休高弟7人の一人。

| |
|--|
| 延命地藏尊 47 G4 |
| |
| 所在：希願院 種類：石仏 |
| 建詳：安政2 （1855） |
| 石材：凝灰岩 |
| 高さ：137cm |
| 参拝：可 |

山門を入り、右手の地藏堂内に安置。台座の彫刻に神戸家支家8代当主梁女経純の室かじ夫の為に金剛經を納め、安政2年建立。同家代神領清右衛門家は藩祖利家が金沢入城の時、召し出され、新知行1,300石を賜る。

| |
|---|
| 神戸以盛の墓 48 G4 |
| |
| 所在：希願院 種類：墓塔 |
| （笠付方柱型） |
| 建詳：文化14 （1817） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：144cm |
| 参拝：要許可 |

当寺は慶長10年(1606)、神戸藏人とその弟清庵が開基で、2代藩主利長より寺地を泉野に拝領。神戸藏人は藩祖利家の弟秀継より1,000石をうけ、2代藩主利長・馬廻頭として仕えた。当墓は神戸家2代当主の分家、神戸以盛のものである。

| |
|---|
| 富永家の墓所 49 G4 |
| |
| 所在：希願院 種類：墓塔 |
| （五輪塔） |
| 建詳：明治17 年会祀 |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：197cm |
| 参拝：要許可 |
| 写真掲載不可 |

富永家は代1,500石高祿を祿す。鬼を重要視する家訓があり、節には「富はうちく鬼もうちと言う。富永右近右衛門助有は金沢町奉行を務める。初代佐太郎の墓は美智院にある。

| |
|---|
| 十一面観音菩薩像 50 G4 |
| |
| 所在：月照寺 種類：石仏 |
| 建詳：慶応4 （1868） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：195cm |
| 参拝：可 |

33観音菩薩の17番と18番の間に安置。彩色が施されており、他の菩薩より小型である。舟形光背には西国33観音札所巡りの六波羅蜜寺のご詠歌、脚部に玉葉童子、台部に慶応四年と刻む。

| |
|--|
| 法華塔 51 G4 |
| |
| 所在：月照寺 種類：層塔 |
| 建詳：不明 |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：195cm |
| 参拝：可 |

本堂前にある法華塔には法華経の一節が彫刻。法華経には観音菩薩が33に變化し、現れるものと説く。年代は不定だが、舟形光背には西国33観音札所巡りの六波羅蜜寺のご詠歌、脚部に玉葉童子、台部に慶応四年と刻む。

| |
|---|
| 前田織江の墓 52 G4 |
| |
| 所在：月照寺 種類：墓塔 |
| 建詳：享保13 （1830） |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：150cm |
| 参拝：要許可 |

前田道清(通称織江)の母は加賀八家前田長種家6代当主孝資の娘源国院。寛政3年(1791)父道との政後6,000石を祿する。小松御城番、12代藩主斉広附を勤め、1,000石加増され、家老を務め若年寄を兼務。文政13年没。

| |
|---|
| 「不許輩酒入山門」の石柱 53 F4 |
| |
| 所在：玉龍寺 種類：石柱 |
| 建詳：延宝3年 （1675） |
| 石材：砂岩 |
| 高さ：187cm |
| 見学：可 |

山門前に立つ、石柱の正面に「不許輩酒入山門」と刻む。句の強い食物や酒を飲食したものを山門の出入りを許さないと言う意味。背面に「延宝三年 前田孝貞(長種家4代当主)寄託」とある。

| |
|--|
| 前田長種室の墓 54 F5 |
| |
| 所在：玉龍寺 種類：墓塔 |
| （宝篋印塔） |
| 建詳：元和2 （1616） |
| 石材：磐谷石 |
| 高さ：347cm |
| 参拝：要許可 |

幸徳は藩祖利家の長女、母は芳春院。加賀八家初代当主前田長種に嫁す。越中守川城藩士たもの山門の出入りを許さないと言う意味。背面に「延宝三年 前田孝貞(長種家4代当主)寄託」とある。

| |
|--|
| 獻燈籠 55 F4 |
| |
| 所在：玉龍寺 種類：燈籠 |
| 建詳：天和12 （1841） |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：194.5cm |
| 見学：要許可 |

燈籠に刻まれている天保12年には加賀八家前田長種家9代当主孝資は5代孝子の嫡男。初代当主孝本も時期。火災御面であったが、天保元年(1848)、藩祖利家の家紋(角弁形に梅枝紋)を刻む。

| |
|---|
| 前田孝資の墓 56 F4 |
| |
| 所在：玉龍寺 種類：墓塔 |
| （笠付方柱型） |
| 建詳：享保3 （1753） |
| 石材：赤戸室 |
| 高さ：439cm |
| 参拝：要許可 |

加賀八家前田長種家6代当主孝資は5代孝子の嫡男。初代当主孝本も時期。火災御面であったが、天保元年(1848)、藩祖利家の家紋(角弁形に梅枝紋)を刻む。

| |
|---|
| 諏訪家の墓所 57 F5 |
| |